

内部被曝、そのメカニズム

- 体のなかに入った放射性物質が、低線量であっても長期間、細胞を、組織を蝕む。
- ペトカウ効果、自発核分裂など。
- 外部被曝と異なったメカニズムで生物の体に悪影響を与える。

ヨウ素131など、甲状腺に

ストロンチウム90など、骨などに残る

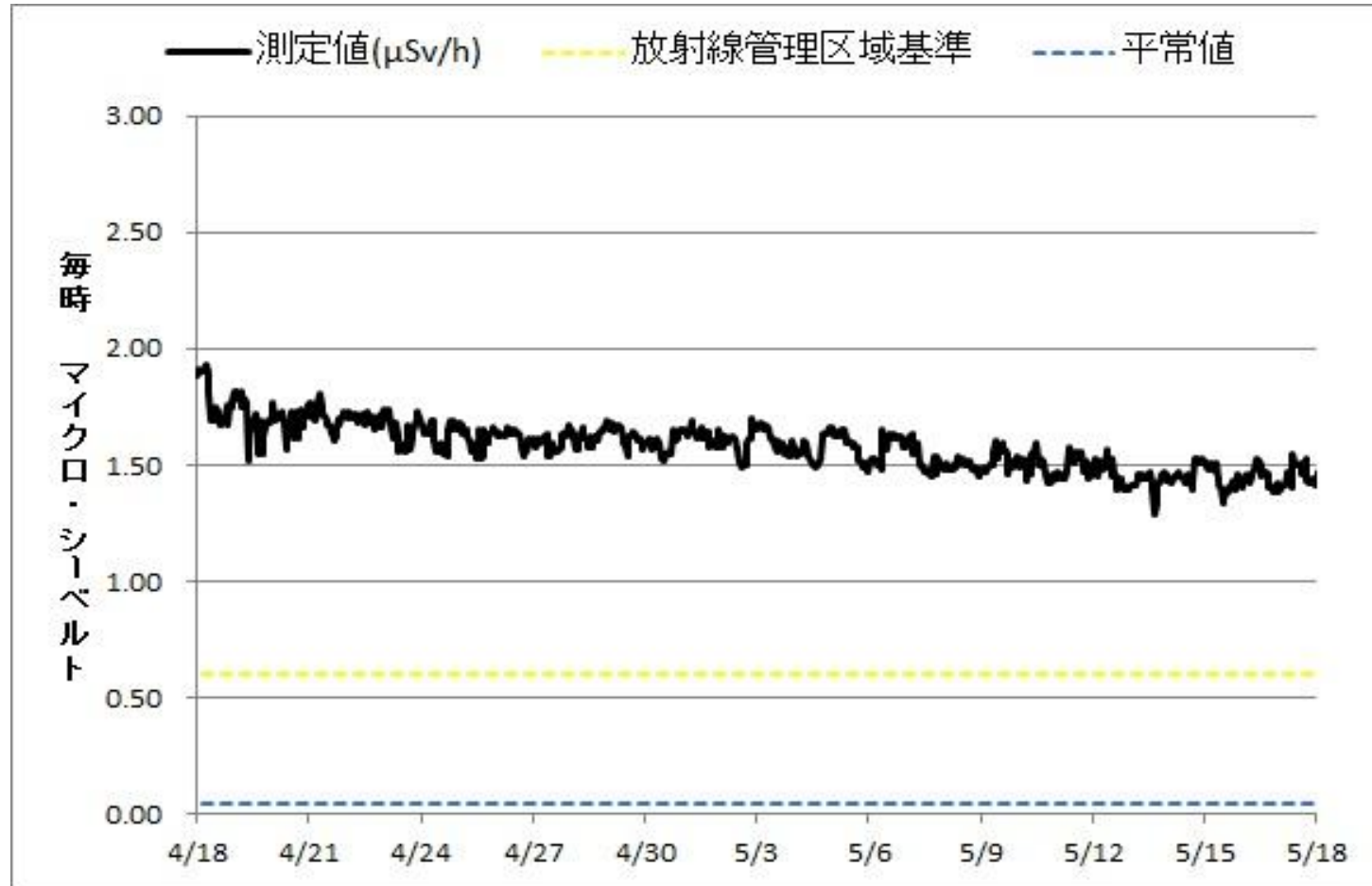
内部被曝、その影響

少量でも体のなかに取り込めば影響を受ける
可能性がある

原子炉が安定したあとも、飲み水や食べ物に
注意が必要

アルファ線、ベータ線を出す放射性同位元素を
計測し、情報公開することも重要

ここ1ヶ月間の変動。参考までに、[放射線管理区域基準](#) (3ヶ月で1.3mSv→毎時0.6 μ Svに換算)と、福島市における平常値も示す



European Committee on Radiation Risk

放射線リスクに関する欧州委員会

- 降下物によって増加する危険の計算方法:
- 文部省のHPからお住まいの県の汚染記録をダウンロードする。
- 平均値を出す。その値はマイクロシーベルト／時 ($\mu\text{Sv/h}$) で示されています。(短期間のみの値の上昇は、計器や附属品に放射性物質が乗ったせいで生じます、のちに雨で流されますから、これは除外します)
- その地域における今までの通常値が表の下などに載っています。大抵は0.017~0.1の値です。この値を事故後の平均値から引き算します。
- 1565を掛けます。この値が、お住まいの県の人口100000人につき今後10年間で放射性物質降下が原因で通常より多く発生する癌の予測値です。(福島原発事故以前に日本の人口全体で悪性腫瘍が発生する確率にその数値を上乗せしてください)

放射能による被害／情報による被害

英国ではクリス・バズビーが証人として出廷する裁判で推進派が敗訴している。

フランスでは、汚染された食品を安全と言った学者が訴えられている。

正しい情報を広めることが大切

医療体制、保健負担の大幅軽減も必要